

令和5年度
学校評価報告書



綾瀬市立綾西小学校

凡例

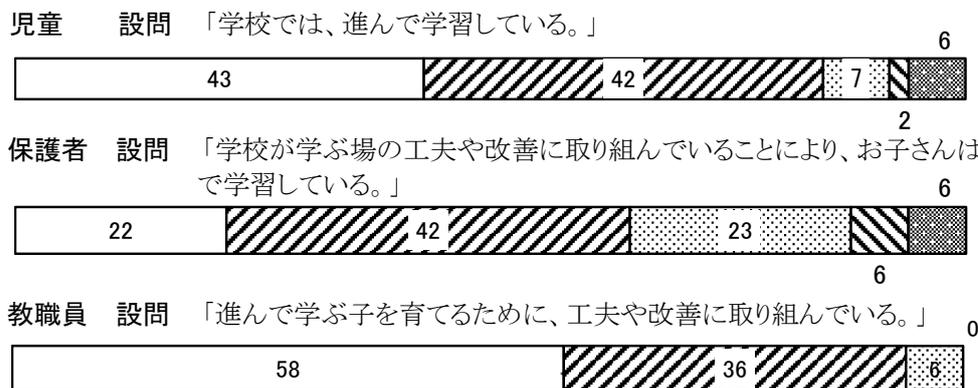
- そう思う
- ▨ ややそう思う
- ▩ あまり思わない
- ▧ そう思わない
- わからない

〔実施日／調査対象〕 令和5年12月15日／児童 613人
 令和5年12月15日／保護者 352人
 令和5年12月15日／教職員 35人

1 学校は、「よく考え、進んで学習する子」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。

学校の取組

本校の学校目標は、「進んで学ぶ子」「思いやりのある子」「じょうぶな子」「ねばり強い子」です。また目指す児童像を「進んでよりよい生活をつくり出そうとする子」とし、学校目標の具現化を図っています。今年度は、『一人ひとりの“発見”がある授業づくり』をテーマに全職員で授業改善に取り組みました。低学年では、児童が「自分らしく伝えられるようになること」を目指して、語彙力や話し合う力を身に付けさせるための学習を行いました。中学年では、教室での学びが児童の「心が動く」ものとなるように、教材研究や発問づくりを行いました。高学年では、児童が「学び方を身に付ける」ことを目指して、児童自らが学習計画を立て、学びを深められるようになるための、教師の手立てや支援の仕方について研究しました。



今後に向けて

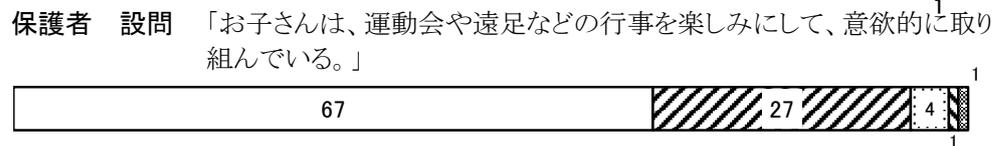
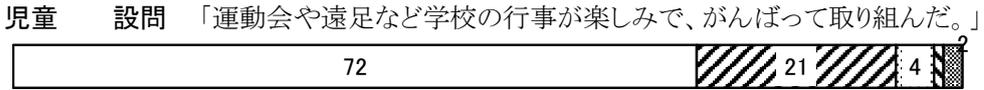
職員が丸となって授業改善に取り組んできた成果として、約8割の児童が「進んで学習している」と回答しています。本校の目指す「進んで学習する姿」とは、学校の授業に向かう姿勢だけではなく、学校以外の生活場面でも探究心を持ち続けることや、自ら学ぶことで社会に出た後でも生きて働く学力を身に付けることです。そのためには、まず児童に学校での学習を「分かる」「楽しい」と思わせることが大切です。今後も、職員一人ひとりが日々の授業改善に努めるとともに、互いに高め合うことのできる職場環境を整えていきます。



2 児童は、学校行事や特別活動にねばり強く取り組んでいる。

学校の取組

本校では、学校行事や特別活動において児童一人ひとりにめあてをもたせ、活動のおわりに自身の取り組みに対する振り返りをさせています。一つひとつの活動に自分事として取り組み、その成果や成長を自分自身でも感じられるようにすることがねらいです。
 また、他学年との交流を通して社会性や思いやりの心を育むことをねらいとした「にこにこ活動」を一年を通して行っています。6年生が中心となって、グループごとに遊んだり、グループで記録の向上を目指す集会を行ったりしました。



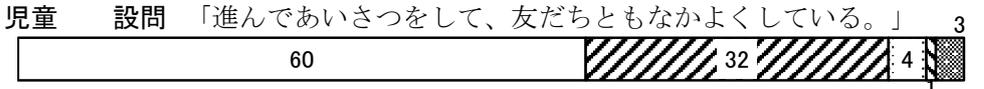
今後に向けて

9割以上の児童が、「運動会や遠足など学校の行事が楽しみで、がんばって取り組んだ。」と答えています。また、9割以上の保護者が、児童は行事や特別活動に積極的に取り組んでいると評価しています。今後も、各行事・特別活動等を通して、児童一人ひとりが生き生きと活躍できるように心がけていきます。

3 学校は、思いやりのある子を育てる指導を積極的に行っている。

学校の取組

本校では、学校教育目標に「思いやりのある子」をあげ、思いやりを持って人と関わる力の育成を図っています。そのために、グランドデザインの中で合言葉を「笑顔であいさつ」と設定し、笑顔で学校生活を送ることを重点に取り組んでいます。そして、児童に指導する前に、職員一人ひとりも思いやりの心をもち、笑顔であいさつすることを心がけています。さらに、今年度は『心の教育推進事業』として道徳の全学級の授業公開や研修会を行いました。



今後に向けて

9割以上の児童と保護者が、児童は「あいさつをして、友だちともなかよくしている。」と答えています。あいさつは、家族や友だち、先生に向けるものだけではなく、地域の方々にも児童自らできるようにしたいと考えています。そのためには、地域の方々がいっしょに児童を見守り、支えてくださっていることが実感できるような学習や体験を積み重ねさせたいと考えています。生活科や社会科、総合的な学習の時間などで地域の方々に関わりをもったり、『ふれあいランド (PTA主催)』や『感謝の集い』などの行事を継続させたりすることで、より一層、児童が地域とのつながりを感じられるようにしていきます。

〔凡例〕 □ そう思う ▨ ややそう思う ▩ あまり思わない ▪ そう思わない ■ わからない

4 児童は友人や先生との学校生活に満足している。

学校の取組

本校の児童指導の目標は、「児童一人ひとりの健全な発育成長を促し、望ましい集団生活の基礎基本を身に付けさせる」です。各学級で、『綾西小のやくそく』の確認や、『スクールアンケート』の実施を行い、児童が安心して学校生活が送れるように努めました。

また、児童一人ひとりの困り感に気づけるように、学期ごとに児童の情報交換を全職員で行ったり、支援教育の研修会を実施したりしました。

児童 設問 「友だちとの学校生活を楽んでいる。」



今後に向けて

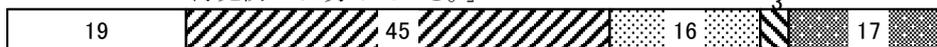
9割の児童が、「友だちとの学校生活を楽んでいる。」と答えています。しかし、1割の児童が、「あまり思わない」「思わない」「分からない」のいずれかに回答しています。学校は、どの状況においても、児童にとって安心して楽しく過ごせる場所でありたいと考えています。そのために大切にしたいことは、職員の人権感覚です。職員が手本となって、児童一人ひとりの考え方や価値観を認め、尊重することで、児童同士も互いに認め合うことができるはずで。また、児童の困り感にきめ細かく対応できるように、職員の支援・協力体制を整えます。

5 学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。

学校の取組

本校では、いじめの早期発見のため、毎月「スクールアンケート」を実施しています。学校内で嬉しかったことやいやなこと、いやな思いをしている友だちのこと等を自由記述で書いたものを担任が集めています。記述内容から問題を把握した場合は、子どもから聞き取りをして、解決済みか継続中なのかを記載して、情報を児童指導グループで集約しています。児童指導委員会や教育相談・ケース会議を開き、チームを組んで情報交換や問題の早期解決に向けて取り組んでいます。

保護者 設問 「学校では、月1回のスクールアンケート等に取り組み、いじめの早期発見・再発防止に努めている。」



教職員 設問 「学校では、月1回のスクールアンケート等に取り組み、いじめの未然防止や早期発見・早期対応に努めている。」



今後に向けて

「スクールアンケート」の取り組みや、児童指導委員会、ケース会議によって教職員は約9割が肯定的回答をしています。しかし、保護者の肯定的回答は6割強程度で、教職員と保護者の捉えに差があります。教職員はいじめの早期発見・再発防止に努めていますが、さらに理解を求めるために、学校だよりや懇談会等、周知の機会を見つけて、今後も積極的に知らせていく必要があります。

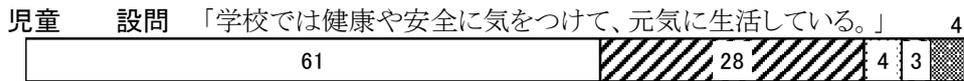
来年度は、1学期に各学級で『いじめ防止宣言』という活動に取り組みます。いじめは絶対に許されないものだということを学校全体で伝え、児童自身にも、一人ひとりができることを考えさせていきます。

【凡例】 □ そう思う ▨ ややそう思う ▩ あまり思わない ▪ そう思わない ▧ わからない

6 学校は、じょうぶな子を育てる指導を積極的に取り組んでいる。

学校の取組

本校では、「じょうぶな子」を学校教育目標の一つに掲げ、自分の健康・安全を守る力の育成を図っています。具体的な取り組みとして昼休みを30分間確保し、外遊びの時間を取っています。また、「にこにこ活動」や「秋・冬集会」を実施し、交流学年とゲームや大縄跳びなどに取り組んでいます。また、学期ごとに行う身体計測時には、養護教諭より健康な体、病気・けがの防止についての指導をしています。



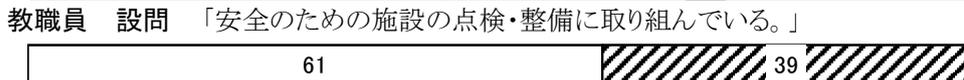
今後に向けて

9割の児童・保護者が、「健康や安全に気を付けて、元気に生活している」と答えました。今年度は、「にこにこ活動」や「秋・冬集会」を計画通り実施することができ、学級集団の枠を超えて遊ぶ機会をもつことができました。しかし、7割の職員が肯定的な回答をしている一方で、「あまり思わない」と答えた職員が3割いました。学校での体育は、児童に運動の喜びを実感させ、いかに生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現の土台となるかを目指しています。今後も、職員同士の情報交換や研修会を通して、授業改善に努めていきます。

7 学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。

学校の取組

本校では、毎月初めに安全点検日を設けて、校舎内外の安全点検を全職員で実施しています。電気安全・エレベーター、非常放送等の各設備や固定遊具の損傷等については、委託業者の定期点検も受けています。また、一斉下校訓練を年1回実施し、併せて通学路の危険箇所も点検しています。さらに、警察署の協力による交通安全教室、避難訓練での指導を計画し、実施するようにしています。



今後に向けて

今年度は、災害に備えた2回の避難訓練と一斉下校訓練、引き渡し訓練を行いました。また、警察署の協力による交通安全教室も実施しました。各訓練において、各学級での避難経路・手順の確認をしたり、自身の取り組みを振り返ったりする事前・事後の指導が欠かせません。指導の内容は職員会議で確認し、学校として一貫した指導となるように努めました。

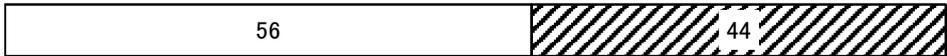
【凡例】 □ そう思う ▨ ややそう思う ▩ あまり思わない ▧ そう思わない ▦ わからない

8 学校は、児童に応じた支援の工夫をしている。

学校の取組

本校では、配慮を要する子ども達には、教育相談コーディネーターを中心にして児童指導支援コーディネーター、学習支援者、スクールカウンセラー等の各担当が対応しています。場合によっては、他機関の協力を得て、随時ケース会議を設けて、よりよい学習環境が保障できるように教職員全員で支援体制を組んでいます。また、学習支援者が、特に支援を要する児童について個に応じた指導・支援を行い、授業進度に沿った学力の定着を目指しています。

教職員 設問 「児童に応じた支援の工夫をしている。」



今後に向けて

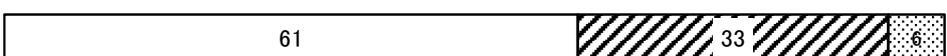
個別に支援が必要な児童には、保護者の要望をもとにして保護者・学校・専門機関相談員との協議を速やかに行い、一人ひとりに応じた教育環境を整えることに努めています。今年度は、集団での学習が難しい児童や登校渋りの児童の対応のために、「ほっとルーム」を活用し、個別指導体制を強化しました。また、スクールカウンセラーによる教育相談も積極的に行い、支援が必要な児童に対し組織的な対応を行うことができました。今後も、教育相談コーディネーターと教頭が窓口となり、学習支援者と担任、養護教諭、スクールカウンセラーとの連携のもと、支援が必要な児童に適切な学習支援が実施できるようにしていきます。

9 学校は、校長を中心とした運営組織になっている。

学校の取組

本校では、「学校運営組織」として、総括教諭を中心とした4グループを組織し、学校経営方針の具現化を目指しています。校長の経営方針を受け、教頭、総括教諭をメンバーとする週1回の企画会議の中で、密なる連絡を図っています。

教職員 設問 「グランドデザインをもとに校長を中心とした運営組織となっている。」



今後に向けて

今年度は、グランドデザインを職員室や各教室、校舎内に掲示し、周知徹底に努めました。各総括教諭、学年代表を中心に全職員が、校長がグランドデザインで掲げている目指す児童像の実現に向けた計画、実践、振り返りを行うことができました。今後も、グランドデザインを意識し、担当総括教諭が中心となって、各グループが連携しながら、効率的で活発な運営が機能するように取り組んでいきます。

[凡例]	そう思う	ややそう思う	あまり思わない	そう思わない	わからない
------	------	--------	---------	--------	-------

10 学校は、教職員の授業力を高めるための校内研究の取組に力を入れている。

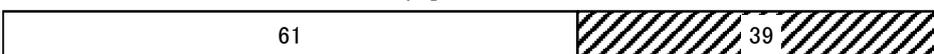
学校の取組

本校では、校内研究を中心に据えて、教師が互いに授業を見合うことで、授業改善を図り、指導力を高め合う取組を行っています。また、校内研究にカリキュラムマネジメントの視点を取り入れ、つながりを意識した授業づくりを行っています。さらに、他校の研究発表会に参加したり、職員研修を積極的に行ったりして、教員の資質向上を目指しています。

教職員 設問 「学校は教職員の授業力を高めるために、校内研究の取り組みに力を入れて



教職員 設問 「学校は教職員の力量を高めるために、必要に応じた校内研修等の取り組みに力を入れている。」



今後に向けて

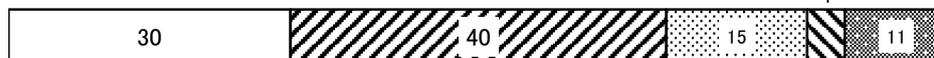
今年度は、教師のファシリテーション力に視点を置き、「一人ひとりの“発見”がある授業づくり」をテーマにした授業改善に取り組みました。児童がおもしろいと感じる授業やわくわくする授業をすることは、教師として常に追求したいことです。今後も、変化の大きい社会の中で、児童にとってよりよい教育とは何かを考えながら、全職員で授業力の向上に努めます。

11 学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。

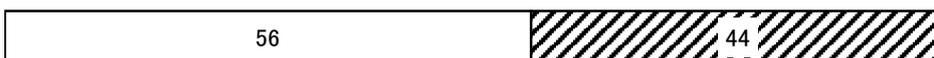
学校の取組

本校では、児童指導・支援グループが中心となり、児童の諸問題を取りまとめて、状況に応じてケース会議を開いたり、相談機関の協力を得たりしながら対処しています。年度初め・学期末の児童指導全体会や、毎月の職員会議で児童の情報交換を行い、健康面も含めたきめ細やかな指導について話し合いを行っています。さらに、児童指導支援コーディネーターを中心として、支援体制を充実させ、児童の実態をより把握できるようにしています。

保護者 設問 「学校では、子どものよさを大切にされた指導をしている。」⁴



教職員 設問 「学校は児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。」



今後に向けて

児童に応じた適切な指導を行い、よりよい成長を図るために、月に1回開かれる児童指導委員会や職員会議の場において、児童指導支援コーディネーターが中心となって、全職員で見守っていく必要のある児童の情報や変化の様子を確認し、今後の関わり方や支援のあり方などを共通理解しました。また、スクールアンケートで問題を把握し、迅速にチームで対応しました。今後も問題行動の状況把握・報告・協議・関係機関への連絡・対応などを迅速に行い、早期解決を図るようにしていきます。

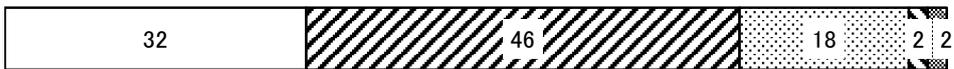
【凡例】	そう思う	ややそう思う	あまり思わない	そう思わない	わからない
------	------	--------	---------	--------	-------

12 学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。

学校の取組

本校では、「学校だより」、「学年だより」、ホームページを通して、保護者や地域に学校の教育活動の様子を伝えています。懇談会や個別面談などでも本校の教育活動について理解を得られるようにしています。また、必要に応じて家庭に連絡を取り、児童指導上の事柄を伝えるようにしてきめ細かい対応を心がけています。

保護者 設問 「学校の様子を学校、学年だより等で知ることができている。」



教職員 設問 「学校は学校だより・学年だより等を通して、学校の情報を保護者に提供し、連携を図る取り組みをしている。」



今後に向けて

今年度は、個別面談や授業参観、学年発表会や運動会等を通じて、保護者の皆様に学校の様子を直接見ていただく機会をつくりました。また、ホームページも開設し、学校だよりや学校運営協議会の様子などをお知らせしました。今後も、学校だよりや学年だより等の内容を精査し、地域・家庭に配付する中で、教育活動の実践を伝えていきます。また、校内の掲示物も工夫し、保護者が来校した際に学校や児童の取り組みを「見える化」していきます。そして、情報発信に留まらず、実際に学校での様子を見ていただく機会の確保を検討していきます。